

経年推移・シナリオ比較グラフ

2025年

働くを再発明する時代がやってくる

2015.6.

リクルートワークス研究所



Recruit
Works
Institute

経年推移グラフ

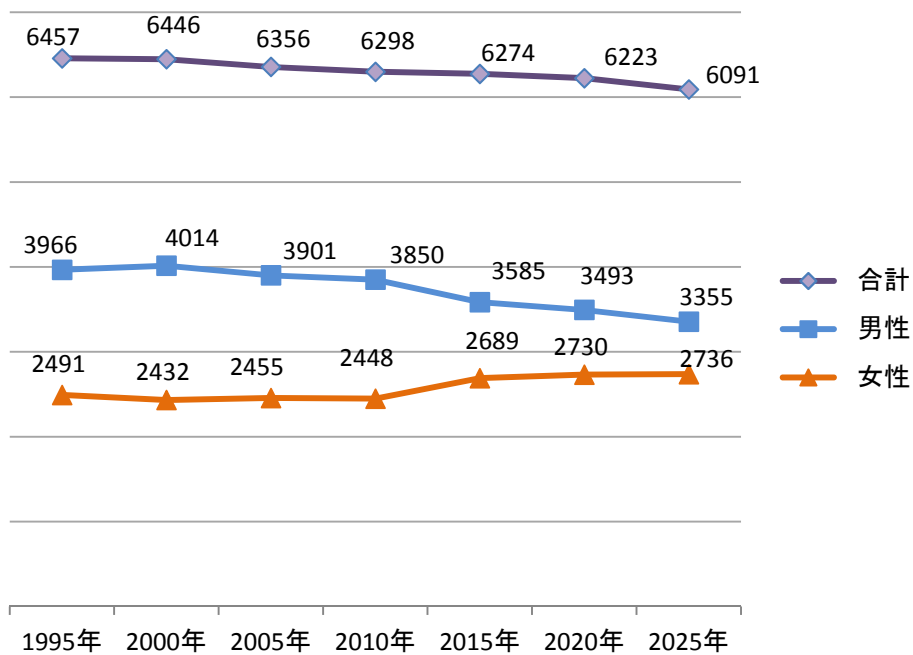
ベースシナリオ 1995～2025年

<http://www.works-i.com/research/2014/2025yosoku/>
データはWebからダウンロードして利用いただけます

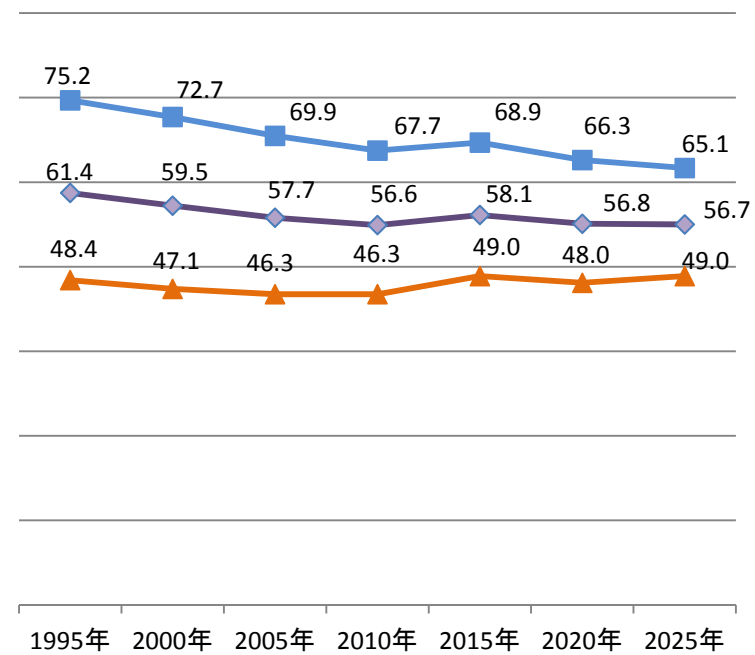
就業者

- 就業者全体は6091万人に減少、就業率も56.7%まで低下する
- 男性は就業者が3355万人に、就業率は65.1%に低下する
- 女性は就業者は2736万人に増え、就業率は49.0%と増加する

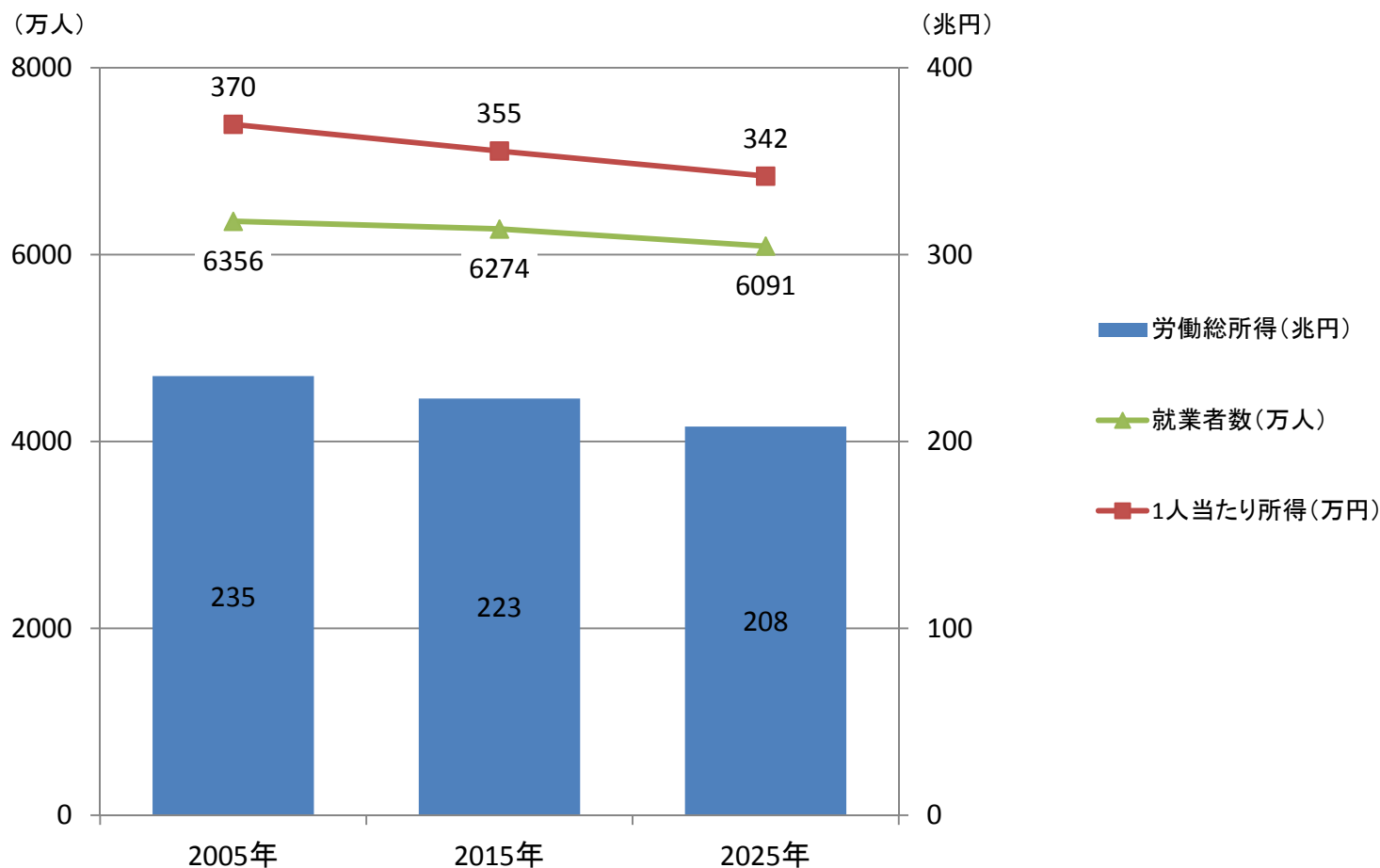
● 就業者数(万人)



● 就業率(%)



- 就業者が6091万人に、1人当たり所得は341万円に減少
- 労働総所得は208兆円(2005年比-11.5%、2015年比-6.7%)

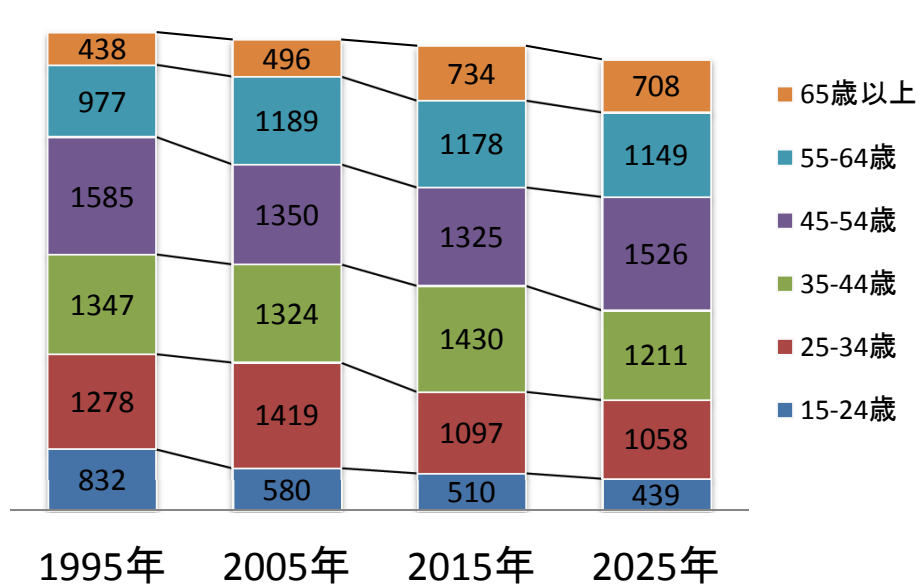


※労働総所得とは、1人当たり所得に就業者数を乗じたものです。

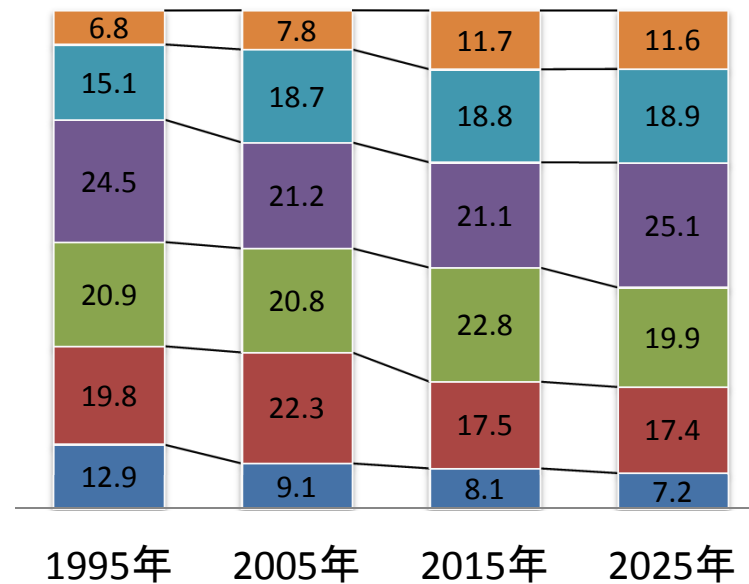
年齢構成

- 2025年に最も多い年齢層は45-54歳、1526万人(25.1%)
- 65歳以上は708万人(11.6%)と2015年から横ばい
- 15-24歳、25-34歳は人数、比率ともに2015年からさらに減少

年齢構成(万人)

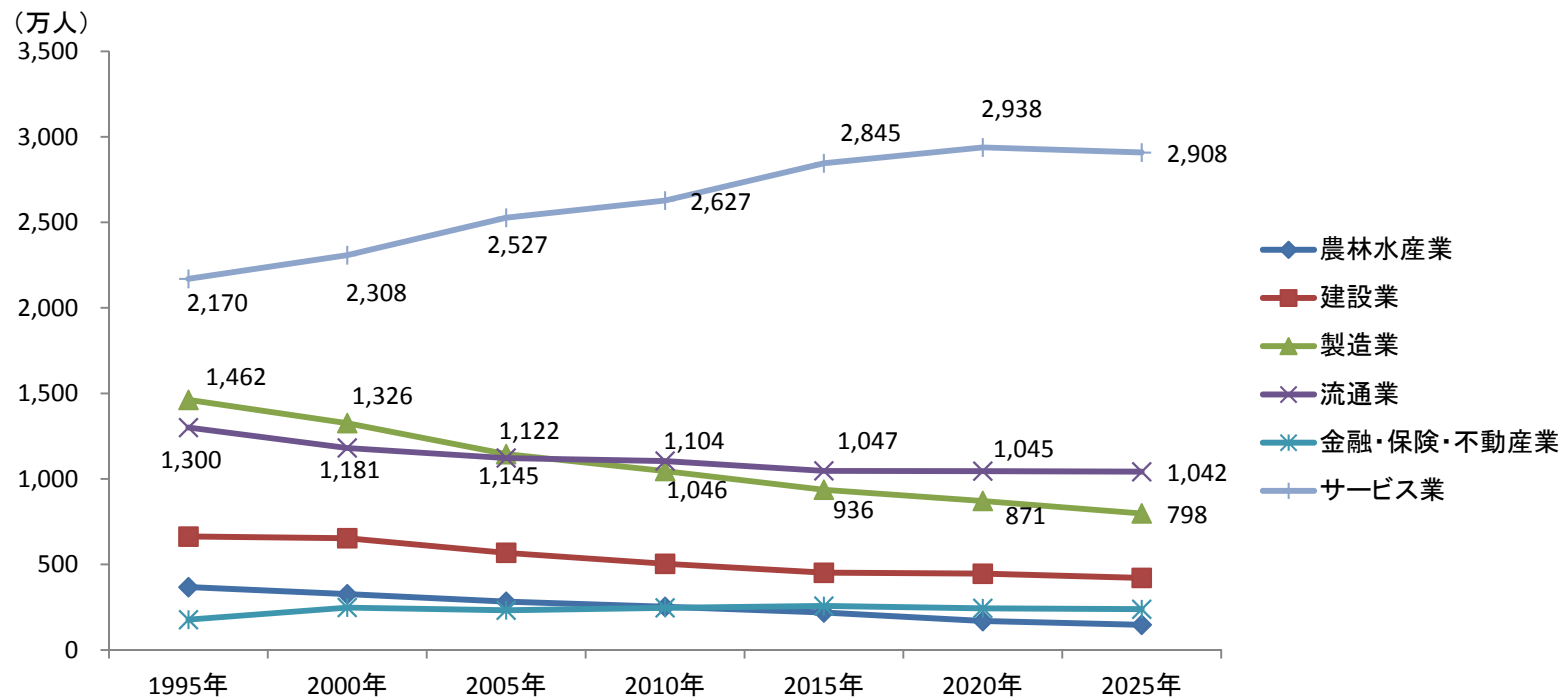


年齢構成比(%)



産業別就業者

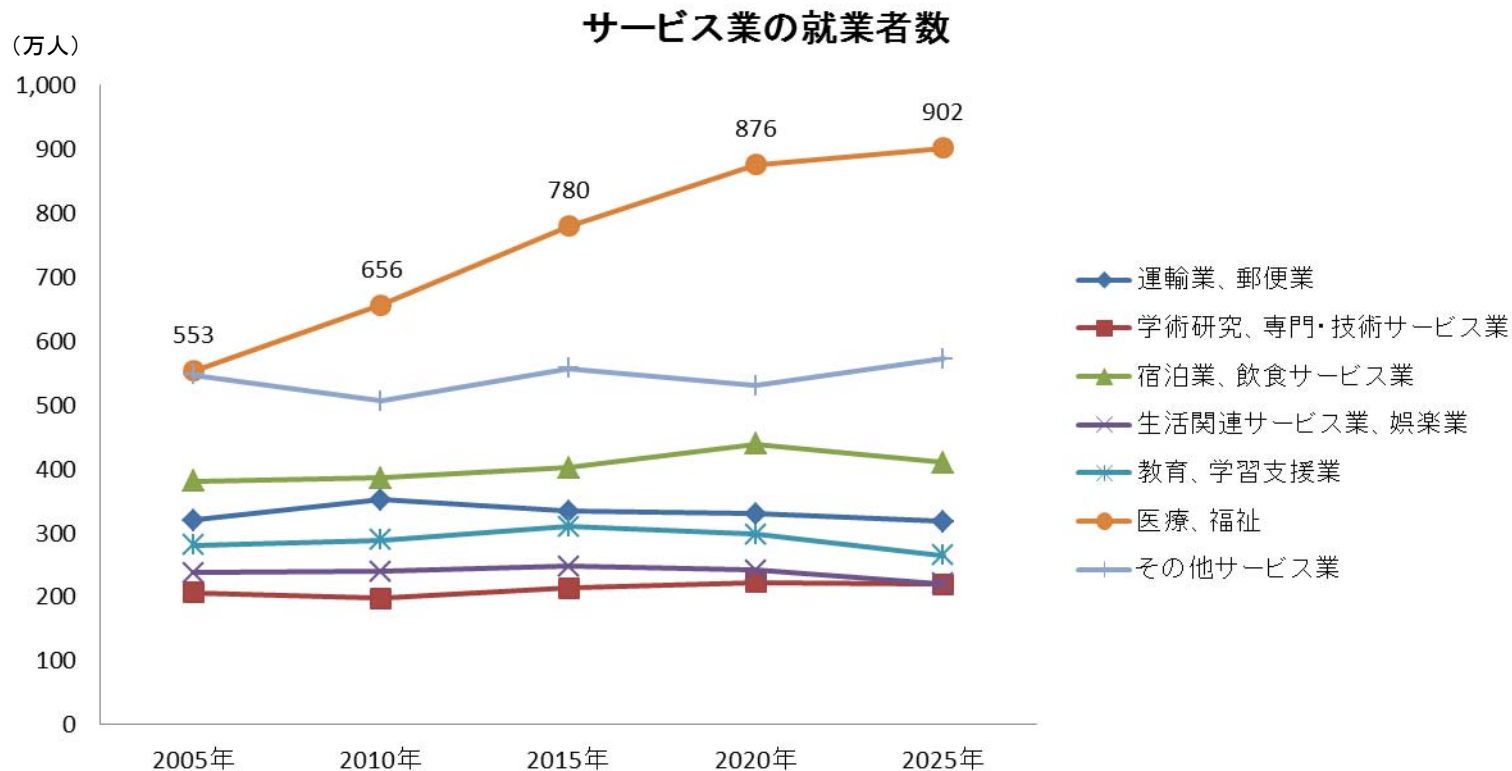
- 2025年にはサービス業の伸びが鈍化
- 製造業、建設業は減少傾向が続くが、建設業の減少幅は縮小
- 流通業の就業者数は横ばい



	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年	2025年
合計	6,457	6,446	6,356	6,257	6,274	6,223	6,091
農林水産業	367	326	282	252	219	169	147
建設業	663	653	568	504	451	446	421
製造業	1,462	1,326	1,145	1,046	936	871	798
流通業	1,300	1,181	1,122	1,104	1,047	1,045	1,042
金融・保険・不動産業	177	248	232	246	257	243	238
情報通信業	130	152	177	197	229	236	256
サービス業	2,170	2,308	2,527	2,627	2,845	2,938	2,908
公務・その他	188	252	303	281	290	273	282

産業別就業者(サービス業詳細)

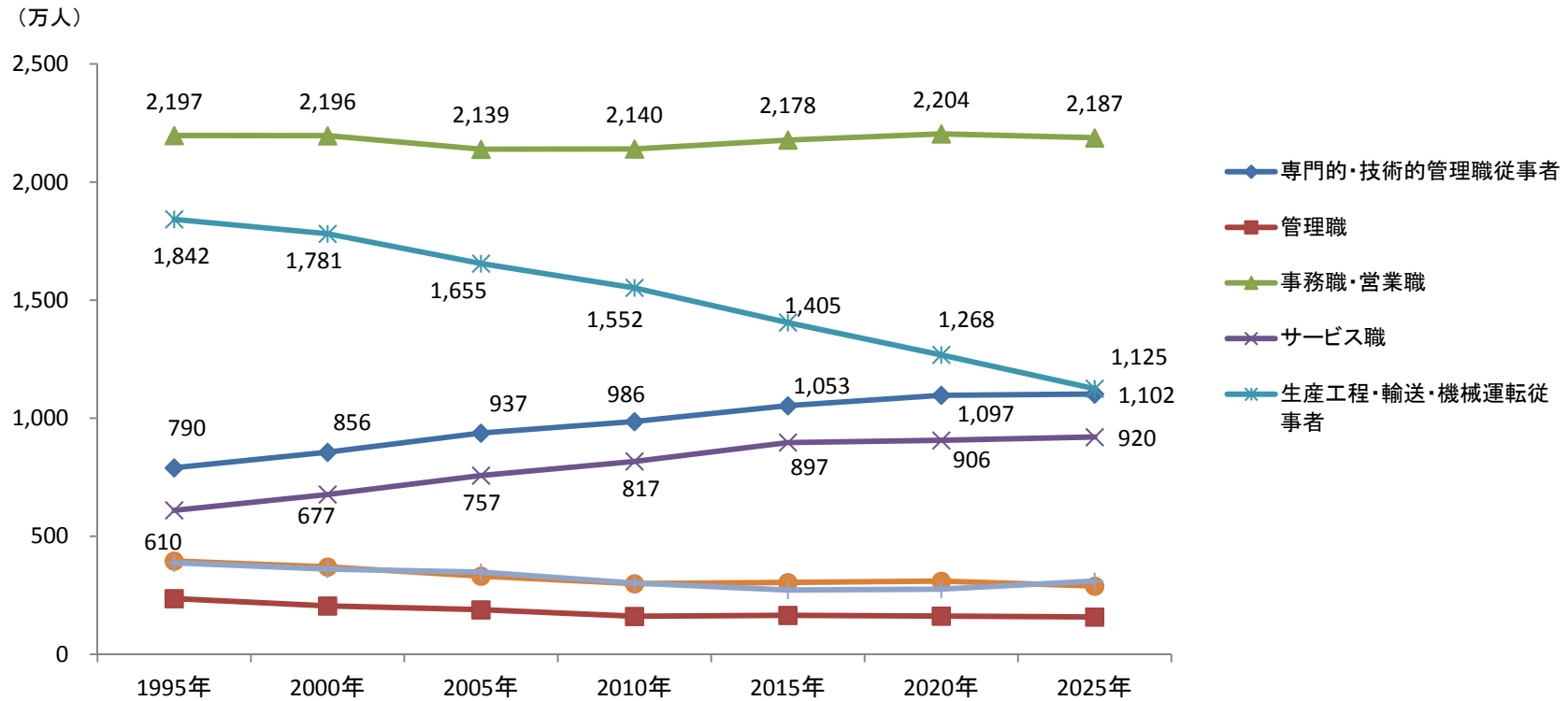
- ・医療、福祉の就業者は増加が続くが、2025年にかけて増加幅が鈍化
- ・宿泊業、飲食サービス業は、2020年をピークに減少に転じる



	2005年	2010年	2015年	2020年	2025年
運輸業、郵便業	320	352	334	330	318
学術研究、専門・技術サービス業	207	198	214	223	220
宿泊業、飲食サービス業	381	386	402	439	410
生活関連サービス業、娯楽業	238	240	248	242	221
教育、学習支援業	281	289	310	298	265
医療、福祉	553	656	780	876	902
その他サービス業	547	506	557	530	572

職業別就業者

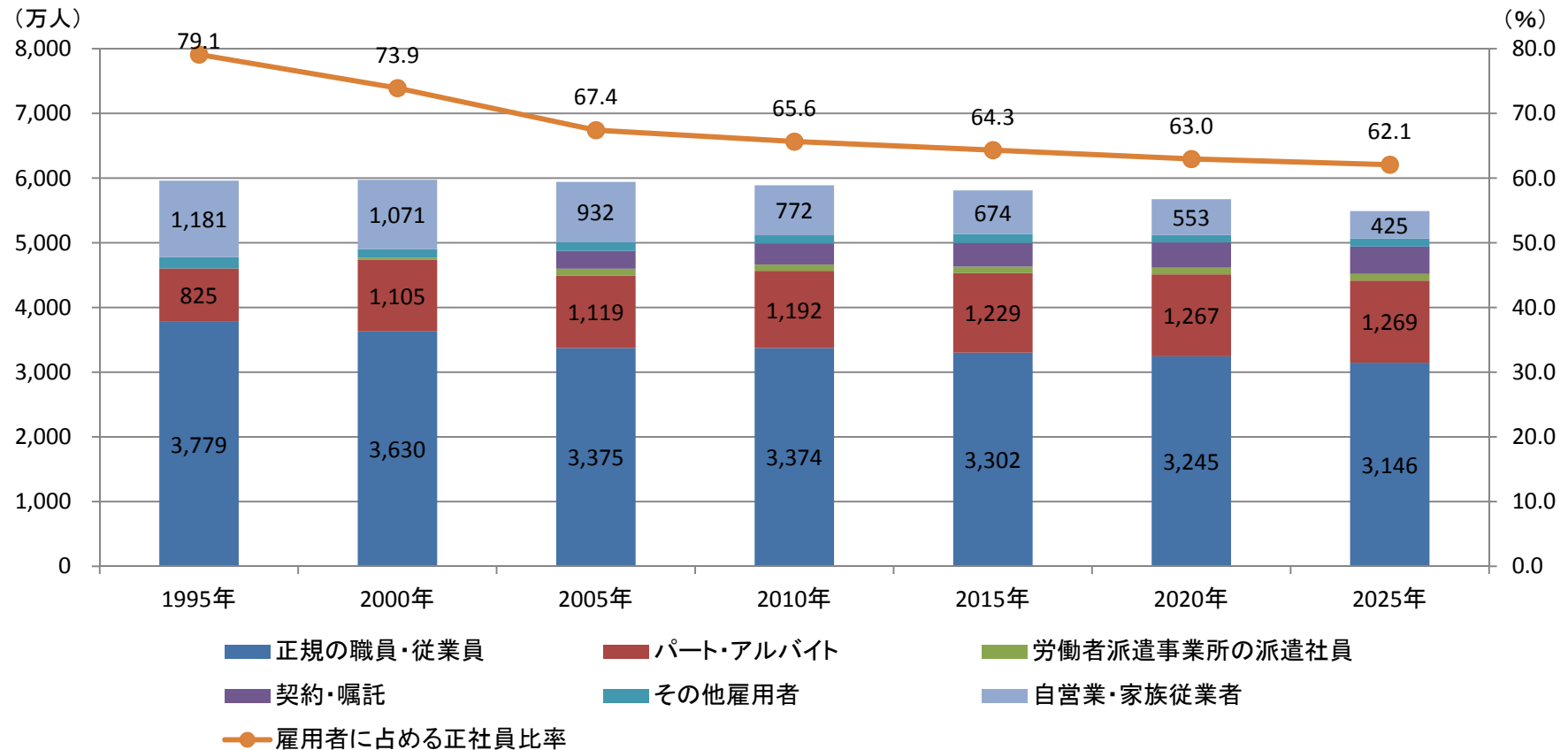
- ・ 製造業などの減少により労務関連は引き続き減少
- ・ サービス職もやや減少



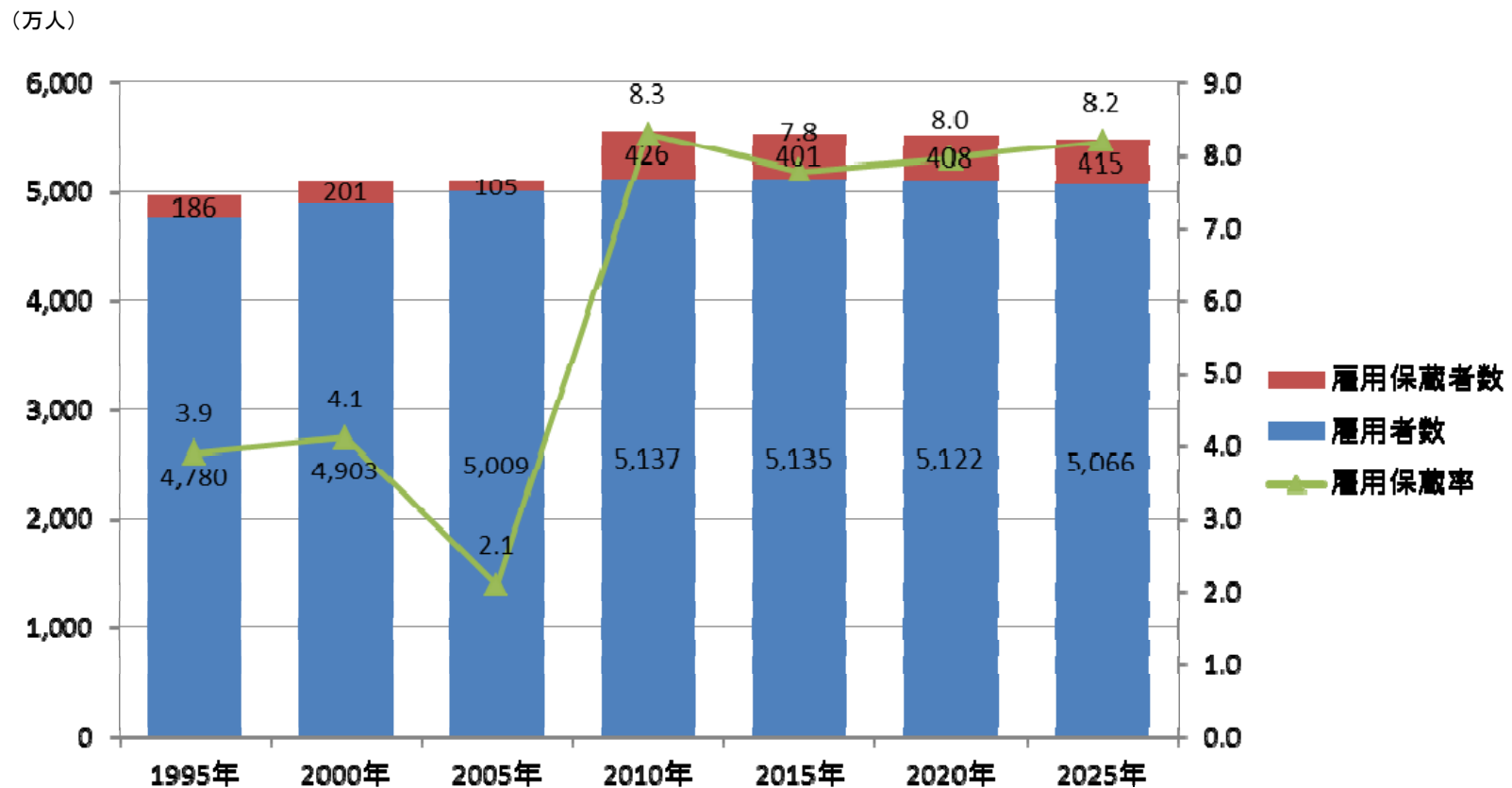
	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年	2025年
専門的・技術的管理職従事者	790	856	937	986	1,053	1,097	1,102
管理職	236	205	189	161	165	162	158
事務職・営業職	2,197	2,196	2,139	2,140	2,178	2,204	2,187
サービス職	610	677	757	817	897	906	920
生産工程・輸送・機械運転従事者	1,842	1,781	1,655	1,552	1,405	1,268	1,125
建設・採掘従事者	395	370	331	299	304	310	289
その他	387	361	348	302	272	276	310

・雇用者に占める正社員比率は逡減

ただし、労働契約法による無期転換や「多様な正社員(限定正社員等)」の増加により、雇用契約無期の就業者は今後増加する可能性がある



- 2025年の雇用保蔵者は415万人（雇用人の8.2%）



※雇用保蔵者とは、企業の業績などから想定される必要な人員と現実の雇用人数を比較して、過剰に雇用していると思われる雇用人のことを指しています。

シナリオ比較グラフ

ベース・悲観・楽観シナリオ

ベースシナリオ:過去のトレンドの延長

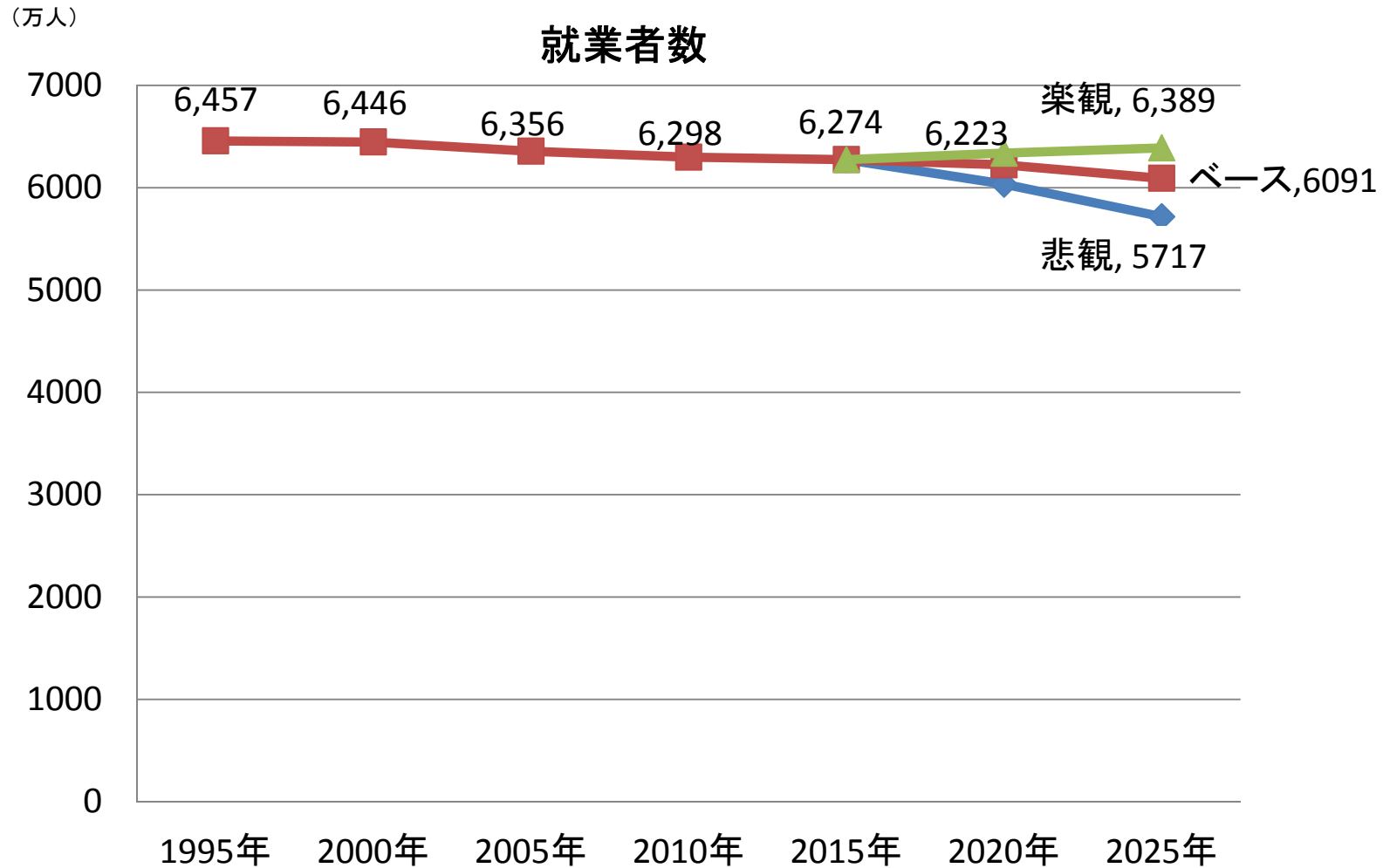
悲観シナリオ:離職率が過去の2倍、労働市場への参入率が1/2倍

楽観シナリオ:離職率が過去の1/2倍、労働市場への参入率が2倍

<http://www.works-i.com/research/2014/2025yosoku/>
データはWebからダウンロードして利用いただけます

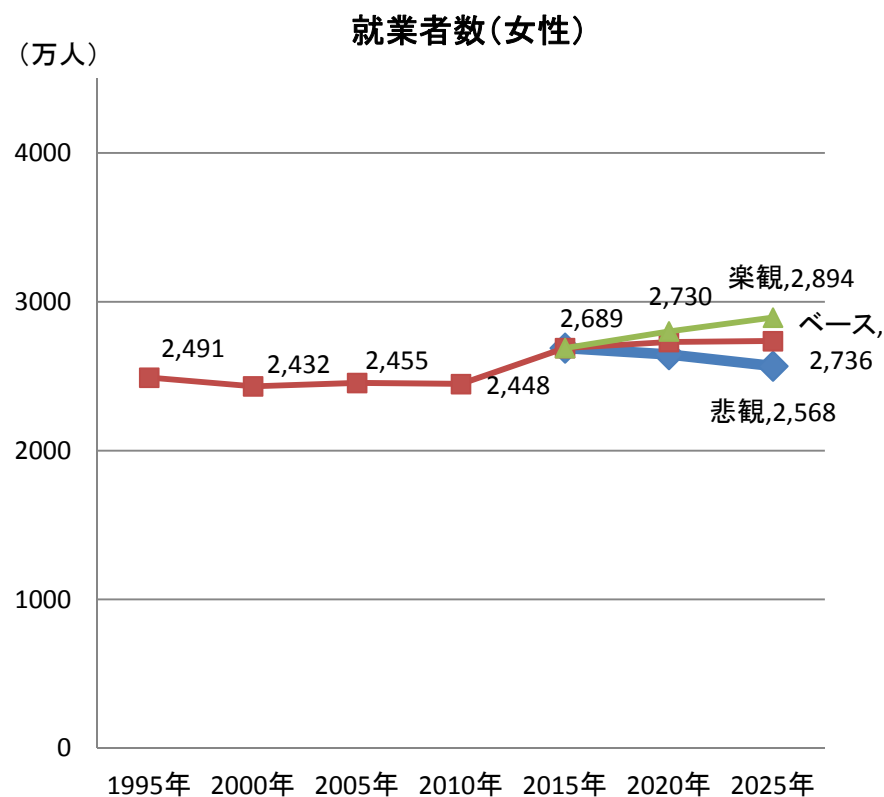
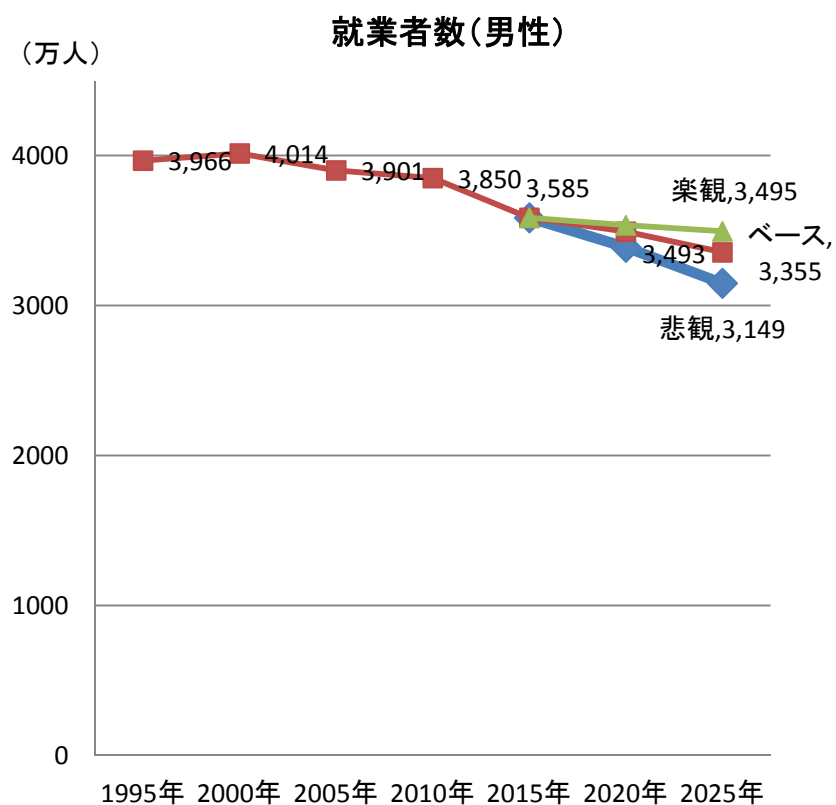
就業者数

- ・ 悲観シナリオでは5717万人まで減少する一方、
楽観シナリオでは6389万人まで増加（2015年より+115万人）



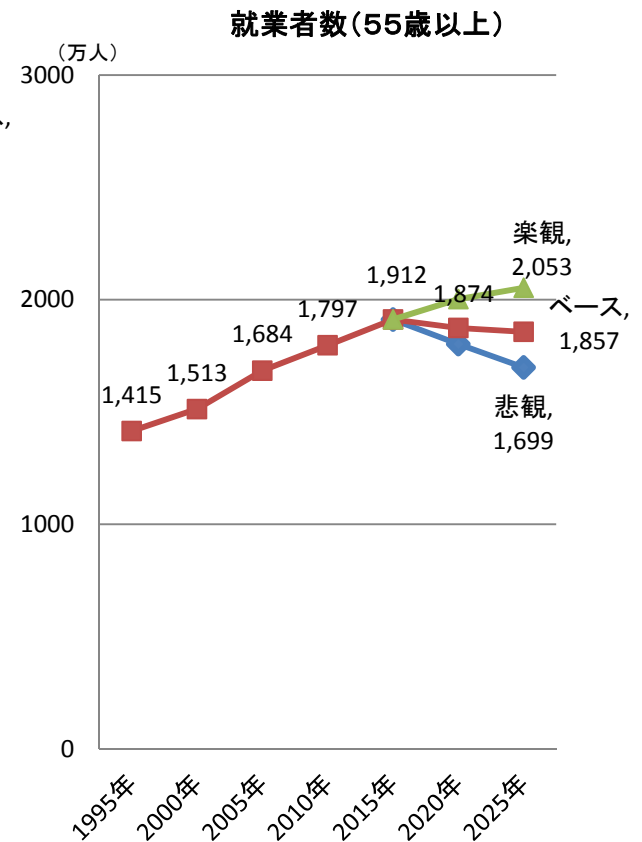
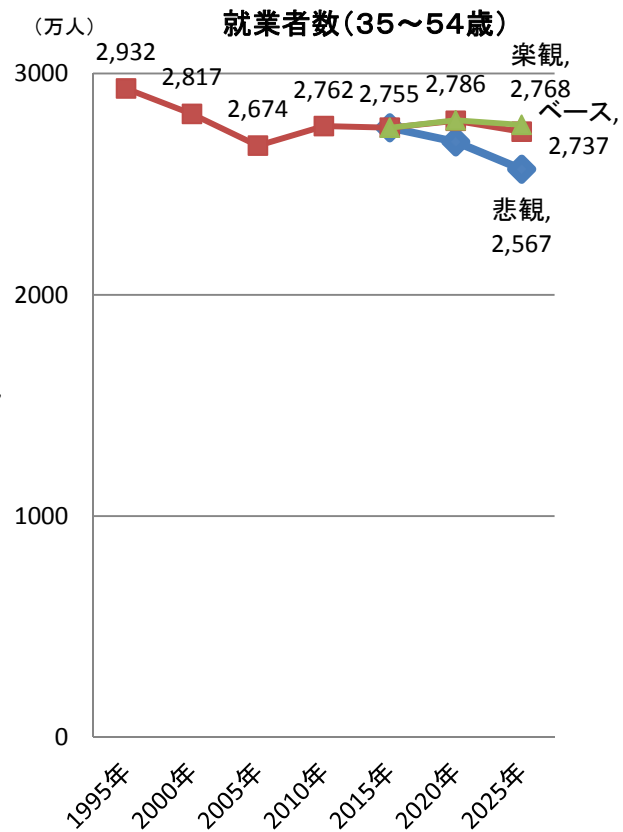
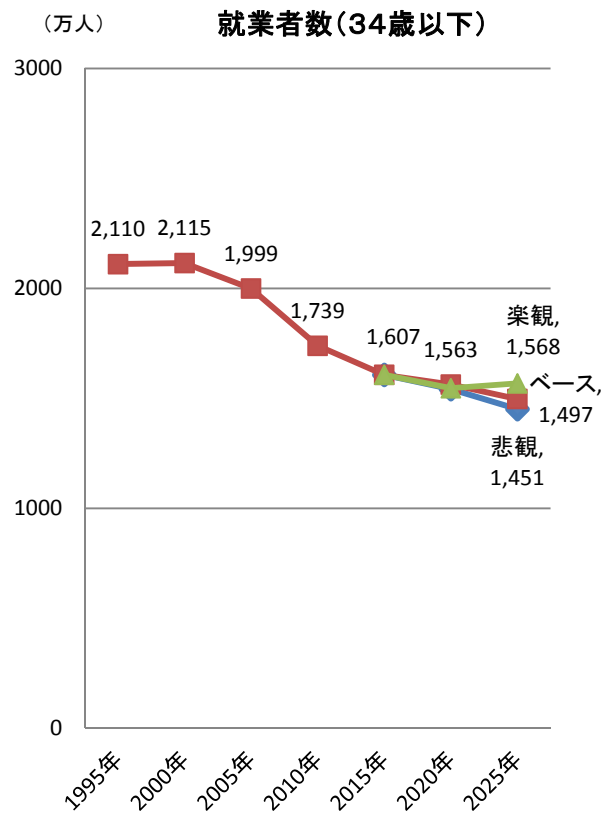
就業者数(男女)

- 男性は楽観シナリオでも減少（2015年より-90万人）
- 女性はベース、楽観シナリオで2015年より増加

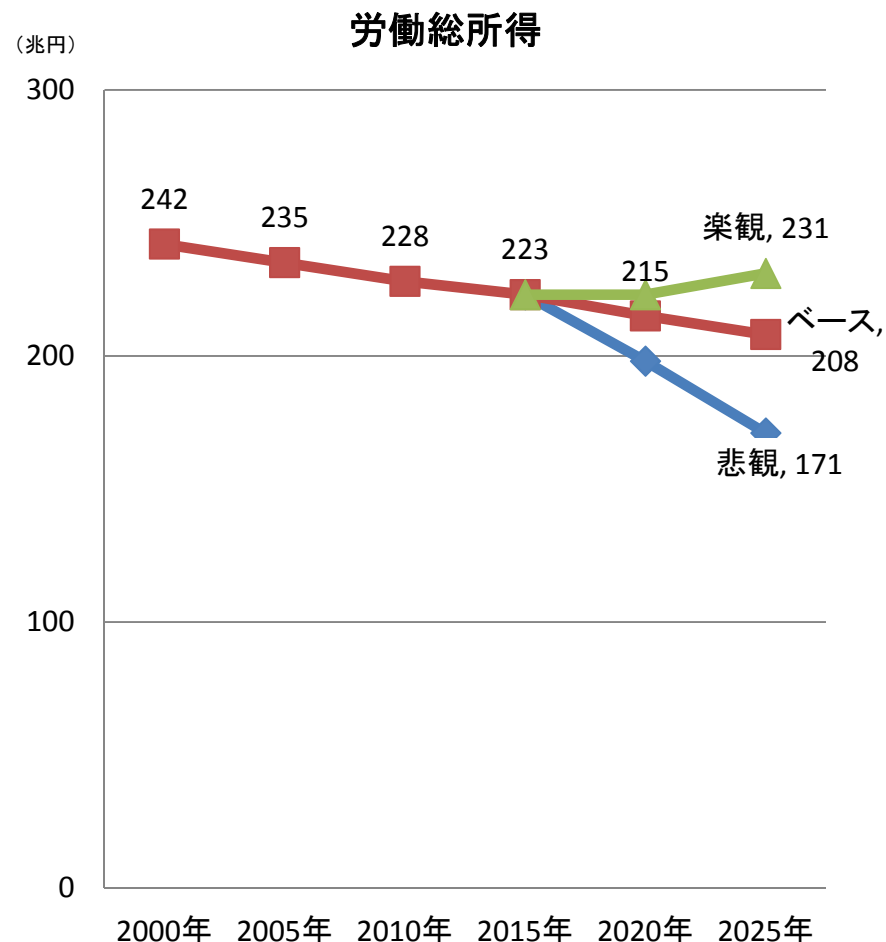
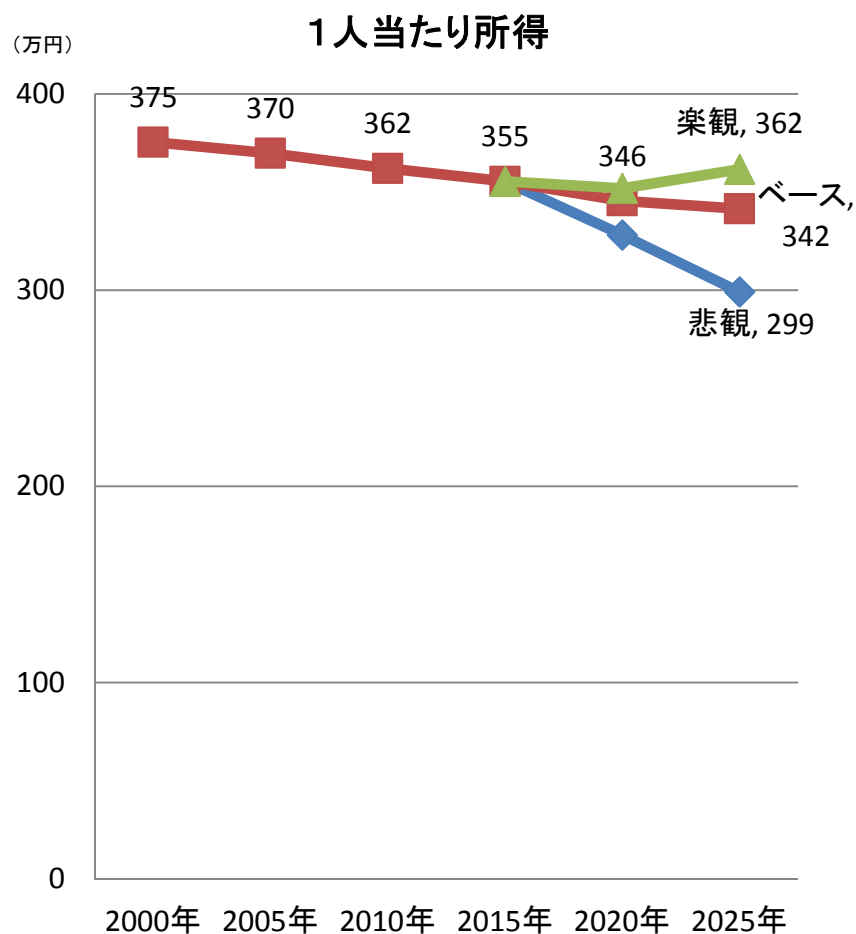


就業者数(年齢)

- ・ 年齢別では、55歳以上においてシナリオによって就業者数に大きく違いが出てくる



- ・ 楽観シナリオでは、労働総所得が2015年よりも増加（231兆円と2015年より+8兆円）



※労働総所得とは、1人当たり所得に就業者数を乗じたものです。